

進出事例5

ファインブランキングでASEANの自動車市場を開拓

(株)東伸

自動車部品のプレス加工、特にファインブランキング (FB) と呼ばれる精密な打ち抜き加工を得意とする東伸 (神奈川県綾瀬市) は、2013年6月からインドネシアで操業を始めた。合弁による海外進出は同社にとって初めて。しかも主力技術をインドネシア工場に持ち込んだ。インドネシアは国内の自動車需要が旺盛なうえ、東南アジア諸国連合 (ASEAN) 地域におけるタイと並ぶ日系自動車・自動車部品メーカーの重要拠点でもある。事業拠点は国内だけしかなかった中小企業の海外進出戦略とは。

企業概要

精密なプレス加工に強み

東伸は、本社のある神奈川県綾瀬市と秦野市に主力の事業拠点を置く。インドネシア進出までは、この2工場を主力とする国内にしか実質的には事業拠点がなかった。2工場のうち、大きく分けて本社工場 (綾瀬工場) は一般プレス、秦野工場はFBによるプレス加工を行うが、近年は本社工場の一般プレスでもFBに負けない精密なプレス加

工をしている。さらにFBは、業界の中でも、最大加圧能力1,000t以上の大型プレスを使い、常温で厚板を増肉加工できる点に強みがある。

FBとは、せん断圧力と板押え圧力、せん断方向と逆方向の逆押え圧力の3つの圧力をかけるプレス加工のこと。せん断面を直角にし、表面も滑らかにできるため、後工程として、せん断面や表面を整える仕上げ加工を省けるメリットがある。また、機械加工による切削工法に対しては、プレス加工の方が大量生産時に品質が安定することや材料ロスが少ないなどのメリットがある。

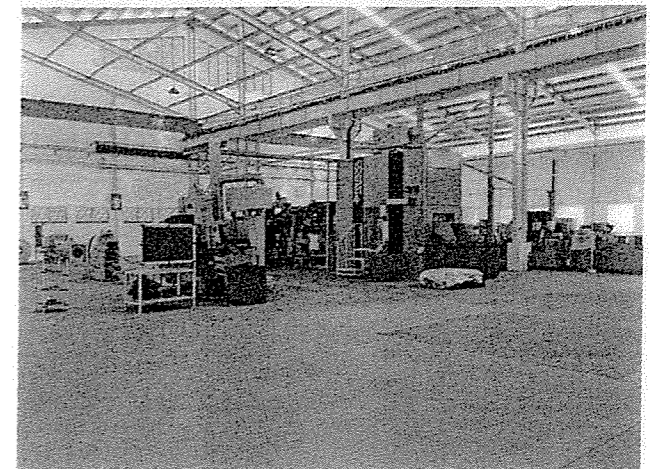
東伸は、直接の顧客であるTier (ティア) 1の自動車部品メーカーに対し、FBをはじめとした精密プレス技術をもとに、コストや品質のVA提案をして受注を拡大してきた。特に自動車・自動車部品メーカーは「2008年のリーマン・ショック前までは、とにかくつくことに全力を尽くしていた。生産量の減ったリーマン・ショック後から、当社のVAに耳を傾けてくれやすくなった」(杉村裕介社長)として、技術力のある東伸に追い風が吹いている。



杉村裕介社長



建設当時のスラバヤ工場



スラバヤ工場。空きスペースが多いが、稼働できることから稼働を始める考えも現地流

海外進出の経緯

東伸のインドネシア進出は、単独での進出ではなく合弁会社の形態を取る。エネルギーや都市開発、自動車関連の製造業を手がけるインドネシアの財閥の一つであるPT.インドプリマ・ゲミランと2012年10月に合弁会社「PT.東伸プリマ・ファインブランキング (略称 TPF)」を設立した。

TPFの資本金は470万ドル、東伸の出資比率は40%。TPFは、ジャワ島北部の港湾都市・スラバヤに工場を建設し、2013年2月から機械設備を搬入、6月に稼働を始めた。スラバヤ工場の敷地面積は約3,600m²、建屋の床面積は約2,600m²。タイへの輸出拠点の位置づけもあり、2013年夏にはタイへの輸出を始めた。TPFの売上高は、2015年12月期に10億円を目指している。

PT.インドプリマ・ゲミランとのつながりは、東伸が30年以上のつきあいのある国内自動車部品メーカーが、PT.インドプリマ・ゲミランとの合弁会社を経営しており、その紹介だった。また、インドネシアは国際的にも親日国の一つで、反日デモの頻発や税制、企業・工場誘致推進を含む国家政策の恣意 (しい) 的な急変などのカントリーリスクの恐れが少ない国として認知されている。

「海外に出るならば、親日国に出なければ長い付き合いはできない。我々はインドネシア側の人に恵まれたこともあり、とても海外の人とやっている気がしない」(杉村社長)という。特に日本の製造業における中小企業は、取引先の手先メー

カーに鍛えられる中で、技術力やQCD (品質、コスト、納期) の点で優れた「じっくり、しっかり」型の企業が多い。ASEAN諸国の中で日本企業の進出実績の多いタイやベトナムも、やはり親日国のカテゴリーに入る。日本政府の支援や連携も多い。製造業の中小企業にとって、海外、中でも東アジアへの進出は、こうした点がベースとなり、中長期的な基盤となる。

スラバヤ工場と国内2工場の概要

国内の本社工場の敷地面積は、約2,200m²、このうち工場建屋は約1,800m²。秦野工場の敷地面積は、約3,300m²、工場建屋は約2,250m²となっている。

スラバヤ工場開設前の本社工場の主要な設備は、最大加圧能力600t、400t、200t、160t、150tが各1台、110tが各2台。このうち、160t1台と110t1台をスラバヤに移設している。

同様にスラバヤ工場開設前の秦野工場の主要設備 (FBプレス) は、最大加圧能力1,000t、800tが各1台、160tが2台。このうち800t1台と160t1台をスラバヤに移設した後、新たに1,000tプレス1台を導入し、現在の主力は1,000tプレスの2台体制となっている。

スラバヤ工場は、秦野工場から移されたFB機の800tと160t、本社工場から移された一般プレスの160tと110tでスタート。さらにFB用プレス1,100t1台と一般プレス400t1台を導入す

会社概要

会社名: (株)東伸
所在地: 神奈川県綾瀬市小園 827-4
設立: 1974年
売上高: 18億円
従業員数: 85人
事業内容: 各種金型設計製作、精密プレス加工、各種精密部品加工
海外製造拠点: インドネシア (スラバヤ)